

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	企画班	佐々木幸樹	0182-32-9501	機能合体強化交付金事業(農産物直売所応援事業)	・消費者の地産地消への関心の高まりに後押しされ、県内トップクラスの売上げを誇る直売所も誕生している。 しかし、管内の直売所の多くは規模が小さく、中には弱体化している組織も見られる。	25,000	交付金	・「食文化フォーラム」協賛物産展への出展(10月)	横手市	農産物直売組織	平成26年4月1日	・行政・生産者が連携して事業を実施し、より生産者の意向を反映した効果的な研修とすることができた。 ・よこての味推進協議会では今後の組織発展に向けた推進体制の検討会を実施する予定となっており、一連の研修内容が問題意識の提起につながったものと考えている。	・現在、協議会を構成している個人・組織ともに高齢化が進み、協議会からの脱退が年々増加している状況。
						平成26年4月～平成27年3月	・このため、既存直売組織の強化と直売所のレベルアップを図り、活性化した直売所から地域の魅力を伝えとともに「食・農・観」連携による新たなアグリビジネスの展開を促して地域の活性化を図る。			・「横手かまくら・ほっこり横丁テナント」への出展(2月)			平成27年10月31日	・今後は6次産業化を目指す直売所・加工組織及び市内農業者を対象に加工・販売の基礎を学ぶ事業を実施予定である。	
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	企画班	佐々木幸樹	0182-32-9501	機能合体強化交付金事業(担い手経営サポート事業)	・平鹿管内には81の集落営農組織等が設立されているが、その70%が未だ任意組織のまま活動している。 ・今後は、個人の担い手の支援に加え、これら組織の法人化を進め、複合化・多角化経営を实践することにより、戦略作目の導入や加工等の新たな部門導入による組織経営体の体質強化を図ることが急務であり、そのためのフォローアップ活動を支援する必要がある。	497,698	交付金	担い手経営力向上セミナーの実施(1月開催、参加者70名) パソコン農業簿記帳相談会(1月開催、参加者9名)	横手市	集落営農組織、認定農業者等の担い手農業者	平成26年4月1日	・複式簿記の実施により、経営状況の把握が容易になるほか、各種支援制度や税制上の優遇措置も適用されるため、担い手の経営発展のために大きな効果をもたらした。	・経営改善のための実効性のある内容となると生産者にはレベルが高い部分もあるため、広く意識高揚を促す入門編と農業法人の経営者等を対象とした応用編で対象を整理するなど、より効果的な事業の推進に努めていきたい。
						平成26年12月～平成27年1月				平成27年10月31日					
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	産地・技術普及班	川原谷 実	0182-32-1805	よこての野菜拡大支援事業	・園芸作目の導入・拡大を目的として、県とJA、横手市が三位一体となり、横手地域の重点品目であるネギ、アスパラガス、ほうれんそう、スイカ、えだまめの生産拡大を図るため、新規栽培者を対象としたセミナーを開催し、技術習得と経営改善について支援する。また、実証ほを設置し、新規に取り組む生産者の早期定着を目指す。	123,060	直営	①新規栽培者等を対象に導入品目の選定に参考にしてもらうためのセミナー等の開催。 ・現地栽培技術研修会(7月、9月) ・事業導入支援研修会(10月) ・新規栽培者講習会(2月) ②ハウレンソウ・スイカの新規栽培に取り組む生産者の早期定着の支援 ・品目別実践ほの設置(2か所)	県	管内野菜農家及び野菜生産を拡大しようと考えている農家	平成26年4月1日	・技術のレベルアップにつながる研修会を開催したことで、より高品質な野菜生産が期待できる。 ・現地研修会を通じて地域生産者とのつながりが一層深まった。	・対象者の絞り込みやセミナー等の開催時期などを検討する必要がある。今後は引き続き生産拡大のほか、マーケティングも視野に入れた営農向上に資する研修会を開催する。
						平成26年4月～平成27年3月				平成27年10月31日			・実践ほ設置により、地域や担当農家の課題解決に取り組んだことで、今後の課題や方向性が明確になった。		

(地域施策推進事業)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	産地・技術普及班	長坂和彦	0182-32-1805	横手の果樹ブランド力向上事業(横手りんご高品質推進事業)	<ul style="list-style-type: none"> 平産地域のりんごは、糖度が高く食味が良いことが特徴であるが、年により結実不良や果形不良などが発生している。 このため、高品質果実の生産に必要不可欠な人工授粉の普及拡大を推進し、「横手ブランド」をより一層高めていく必要がある。 	235,787	直営	高品質な果実生産につながる人工授粉の普及拡大に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> 人工授粉講習会(4月、5月) 先進地調査(青森県) 	県	果樹生産者	平成26年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> 人工授粉講習会の実施により、授粉の具体的な方法等について生産者に周知できた。 管内の人工授粉の実施面積は約80haで、前年の3倍以上に達した。 	<ul style="list-style-type: none"> 人工授粉の実施率を一層向上させ、高品質な果実生産を推進する。
						平成27年10月31日	<ul style="list-style-type: none"> 人工授粉の実施率が向上することで、より高品質な果実を消費者へ供給することが期待される。 								
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	産地・技術普及班	長坂和彦 平良木朱美	0182-32-1805	横手の果樹ブランド力向上事業(種なし大粒ぶどう産地加速化事業)	<ul style="list-style-type: none"> 当地域は県内一のぶどう産地。現在の品種は中粒種が7割を占めるが、消費者ニーズの変化により、種なし大粒ぶどうへの転換が必要。 特に「シャインマスカット」は、消費者ニーズが極めて高く、比較的栽培もしやすいことから、急速な生産拡大が必要。 また、横手地域に適した優良黒色系・赤色系品種の検討を行い、「シャインマスカット」と併せた販売が可能な品種の検討が必要。 	422,194	直営	1 栽培技術向上と生産拡大支援 ・開花前後の栽培管理講習会 ・「ぶどう先進地視察研修会」の実施(福島県、8/5) ・「シャインマスカット現地巡視会」の実施(9/1) ・「シャインマスカット専用カラーチャート説明会」の開催(9/17) ・「シャインマスカット品質検討会」、「大粒種なしぶどう赤・黒系品種検討会」の実施(9/30) ・「新規栽培者向け講習会」(5/28、6/25、7/8、11/6、3/下) ・シャインマスカット実証モデル農業者への個別指導(随時) 2. 宣伝・販売対策 ・「シャインマスカット出荷目揃い会」(9/17) ・「出荷報告会」支援(9/25) ・長期貯蔵販売への取り組み支援(随時)	県	果樹生産者	平成26年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> 先進地視察研修や果実品質検討会などを通じて、生産者がシャインマスカットの生産技術・販売についての知識を高め、一層の生産意欲向上につながった。 消費者ニーズが高まっている種なし大粒ぶどうの生産体制が整備され、安定した供給体制が整いつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> シャインマスカットの新規栽培者の早期成園化に向けて、研修会の開催や個別指導を引き続き実施する必要がある。 技術面の支援に加え、横手産シャインマスカットのブランド化のために、販促活動にも取り組んでいく。 シャインマスカットの年末販売を視野に入れ、長期貯蔵技術の確立に取り組む。 シャインマスカットとセット販売可能な赤・黒系品種の有望品種の検討も引き続き行っていく。
						平成27年10月31日									

(地域施策推進事業)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	産地・技術普及班	長坂和彦	0182-32-1805	横手の果樹ブランド力向上事業(果樹放任園等解消事業)	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度以降に発生した果樹の雪害や果樹生産者の高齢化・減少などの理由から、管内の放任園・廃園が増加傾向にある。 放任園・廃園は、モモンクイガなどの病害虫の発生源となっており、この対策に果樹農家は苦慮している。 	222,000	補助金	<ul style="list-style-type: none"> 共同防除組織等による伐採・抜根作業に関わる経費に対して助成。約232aの放任園について樹木の処理を行った。 	横手市	共同防除組織等	平成26年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> 放任園、廃園が解消された園地では、病害虫の発生拡大を防止できた。 本事業の創設により、長年の懸案であった放任園の解消について、果樹生産者から一定の評価を得ている。 	担い手の高齢化により今後も放任園の増加が懸念されることから横手市と連携のうえ放任園の根絶対策を進める。
						平成26年4月～平成27年3月	<ul style="list-style-type: none"> 病害虫の発生源を絶ち、果樹の品質向上を図るため、早期に伐採や抜根を行う必要がある。 						平成27年10月31日		
総務企画部	米澤輝夫	地域企画課	地域振興班	宮崎 誠	0182-32-2115	生産改善と取引拡大及び地域内雇用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 輸送機関連産業等で要求される高い品質水準に対応するため、生産現場を対象とした勉強会、見学会等を実施するとともに、取引拡大に向けて見学者等からの講演やアドバイスをいただく事業を実施する。 	1,526,012	交付金	<ul style="list-style-type: none"> 地域版「東北地域の車を考える会inよこて」の開催 新技術プレゼン参加企業7社、講演会参加企業38社 生産技術勉強会の開催 県内参加企業6社 自動車メーカー見学会(奥州市、金ヶ崎町)の開催 参加企業7社 高校生工場見学会の実施 実施校5校、参加生徒348名 秋田県南工業振興会への補助 生産現場や加盟団体向けのセミナー、研修等の実施 	県	管内企業(一部管外企業含む)	平成26年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> 地域版「東北地域の車を考える会inよこて」においては、トヨタ自動車東日本に対し、新技術をプレゼンした企業は、今後の取引拡大に向け、弾みをつけることができた。 生産技術勉強会に参加した企業では、生産性の改善、従業員の負担軽減等を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車関連企業への参入の壁は非常に厚く、息の長い取組になることが予想される。このため、関係機関を通じ情報収集に努め、やる気に結びつくような情報を企業に提供していく必要がある。 高校生、教育関係者を対象に、ものづくり産業を支える人材の育成・確保を促進するため、高校生を対象とした企業見学会を実施する。
						平成26年4月～平成27年3月	<ul style="list-style-type: none"> 地域のものづくり産業を担う人材の育成・確保を促進するため、高校生を対象とした企業見学会を実施する。 						平成27年10月31日		

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画 部	米澤輝夫	地域企画 課	地域振興 班	高山 好 美	0182-32- 0594	食品産業支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供の重複を避けるため、県で保有する事業者リストに加え横手市で保有する事業者リストを統合し、各種補助金、物産展や商談会の開催情報を積極的に提供し、魅力ある横手市産品の販路拡大の機会に資する。 ・首都圏等において売込活動を積極的に展開し、県産品の情報発信機会の拡大と多様な販売チャネルの確保を図る。 	1,018,397	直営、交 付金	<ul style="list-style-type: none"> ・情報希望事業者(157社)への情報発信(計7回) ・県内・仙台・首都圏等での物産展の開催(秋田市:3回、仙台:3回、東京:2回) ・首都圏で開催された商談会への出展支援(こだわり食品フェア、アグリフードエキスポ) 	県	行政関係 者、食品・ 農業・観光 事業者	平成26年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・県内、仙台圏、首都圏等で開催した物産展では食・農・観事業者及び県南3局の連携参加による相乗効果で、県南地域と特産品の知名度向上に効果的な企画として実施できた。 ・情報発信について、情報希望事業者へ県で一括送信することにより、情報の重複や時間のロスを解消することができた。 ・首都圏で開催された商談会では、一企業で出展するには出展料が高額であるため、出展料を行政が負担することで多くの企業に商談機会が与えられ商談成立した商品も出ており、出展者が商談等でブースに不在になるケースや来場するバイヤーへの対応等、出展支援の効果があつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き県南3局連携により、消費者が集中する仙台及び東京圏において観光PR & 物産展を開催し、県南の食・農・観をまるごと売り込み、さらなる知名度向上に努める。 ・情報発信について、情報提供希望者を新規獲得し、県及び横手市事業の周知に努める。 ・横手市や関係機関(商工会等)と協力し、首都圏等で開催される商談会への出展支援を行い、横手市産品の販路拡大を図る
						平成26年4月～平成27年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・各種商談会等を通じ、売れる商品づくりに向けた気運の醸成と販路拡大の機会提供を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察においては、行政と蔵ツカースとの連携による効果的な視察であり、また、蔵ツカースの資質向上にもつながった。 ・旅行雑誌への広告掲載については、雪まつりと増田の蔵を絡めた内容を掲載することができ、県外向けの誘客のための効果的なPRを行うことができた。 			<ul style="list-style-type: none"> ・こまち蔵しっく号については、事前予約制にするなど今年度から方式を変更しているが、利用率が伸び悩んでいることもあり今後のあり方についてさらなる検討が必要である。 		
総務企画 部	米澤輝夫	地域企画 課	地域振興 班	高山 好 美	0182-32- 0594	機能合体による広域観光振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田DCで盛り上がった県民の機運を26年度開催の国民文化祭、アフターDCへ継承させるため、県観光キャンペーン推進協議会「横手・湯沢地域部会」や秋田県南地域広域連携観光推進協議会による周辺市町村連携での観光PRをさらに推進する。 ・またDCでの観光客の流動を検証し、2次アクセス整備推進を引き続き行うことにより、観光客の受け入れ体制の充実を図る。 	1,020,000	交付金	<ul style="list-style-type: none"> ・県南の広域観光ルート造成のため県南周遊バス「こまち蔵しっく号」を運行(7～12月) ・増田エリアにおける夜間観光の可能性を探るための先進地視察(平成26年12月、京都市) ・県際交流事業(県境国取り合戦)に対する負担金〔県境国取り合戦実行委員会:岩手県西和賀町〕 ・旅行雑誌「旅行読売 27年2月号」への広告掲載 	横手市	観光客、 旅行者	平成26年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・こまち蔵しっく号については、事前予約制にするなど今年度から方式を変更しているが、利用率が伸び悩んでいることもあり今後のあり方についてさらなる検討が必要である。 	
						平成26年4月～平成27年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行雑誌「旅行読売 27年2月号」への広告掲載 			<ul style="list-style-type: none"> ・旅行雑誌への広告掲載については、雪まつりと増田の蔵を絡めた内容を掲載することができ、県外向けの誘客のための効果的なPRを行うことができた。 			<ul style="list-style-type: none"> ・こまち蔵しっく号については、事前予約制にするなど今年度から方式を変更しているが、利用率が伸び悩んでいることもあり今後のあり方についてさらなる検討が必要である。 		

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
福祉環境部	南園智人	健康・予防課	健康・予防班	高橋恭子	0182-32-4006	歯科口腔保健体制整備推進事業	・住民の「口腔機能の重要性」に関する意識を高め、地域での口腔機能向上等の歯科口腔保健推進体制の整備を促進するため、一般住民に対する啓発を目的とした「横手平鹿地域健口フォーラム」を開催する。 ・フォーラムの開催を通じて、秋田県歯とお口の健康推進条例の住民への周知を図り、在宅や施設における医科歯科連携の方策を検討する。	219,696	直営	・「横手平鹿健口フォーラム」の開催(7月開催、163名参加) ・口腔ケア職員研修の実施(参加者112名)	県	管内住民	平成26年4月1日	・口の健康の重要性の啓発方法の一つとしてとても有効な手段であった。 ・職員研修については、施設に向くことによって具体的な講話や実技が実施できた。	・フォーラムは啓発手段としては有効であったが、歯科口腔保健体制の整備として今後に結びつくには課題がある。 ・特に高齢者においては全身の健康や栄養に関わる部分が多いため、横手市地域包括支援センター、歯科医師会の取組を支援しながら、地域全体の体制に結びつけるような働きかけを継続する。
						平成26年7月～平成27年2月	平成27年10月31日								
建設部	田口 郁夫	用地課	用地・管理班	樋渡 豊	0182-32-6208	アダプトプログラム事業	・住民の少子化や高齢化により、従来、道路や河川において実施されてきた地域自治会等による清掃や除草等の美化活動が減少している状況にある。 ・このような現状に対して、この事業は、地域の共有財産である道路・河川への愛着を深め、良好な環境づくりと利用者マナーの向上を図ることを目的に、環境先進活動団体に里親になっていただき、ゴミ拾いや除草等の維持管理を行ってもらう。県はその活動に対して支援を行う。	95,411	直営	【アダプト・ロード】 ① ヨコウン(株) 横手大森大内線 L=1.5km 年4回 ② JA秋田ふるさと 横手停車場線 他 L=0.2km 年3回 ③ 泉谷・細谷設備EMS実行委員会 野崎十文字線 L=0.2km 年8回	県	環境先進活動団体(道路3団体)	平成26年4月1日	・活動団体が積極的に空き缶やゴミ拾い、除草等を実施することにより、利用する市民の環境に対する啓発が見込まれるとともに、今後、事業に参加を希望する市民や企業が増える予想される。 ・ゴミ拾いや除草により道路や河川がきれいになり、道路を走行する市民や横手川を散策する市民に清々しさと癒やしを与えていると推測されるので、満足度は良好と判断される。	・現在、道路3団体がアダプトに参加しているが、今後、アダプト事業に意欲・関心を持って活動団体数を増やし、道路・河川の維持管理活動の活性化を図る必要がある。 ・活動団体へのPRを積極的に行うとともに、団体が活動しやすい環境づくりを積極的に推進する。
						平成26年4月～11月	平成27年10月31日								